

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第3区分

【発行日】平成17年5月26日(2005.5.26)

【公開番号】特開2004-15836(P2004-15836A)

【公開日】平成16年1月15日(2004.1.15)

【年通号数】公開・登録公報2004-002

【出願番号】特願2003-337970(P2003-337970)

【国際特許分類第7版】

H 04 M 11/00

G 06 F 1/16

G 06 F 3/00

H 04 Q 7/34

【F I】

H 04 M 11/00 302

G 06 F 3/00 A

H 04 B 7/26 106 A

G 06 F 1/00 312 G

【手続補正書】

【提出日】平成16年1月7日(2004.1.7)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

公衆通信回線に無線によって接続され、該公衆通信回線を経由して発信、または受信を行う無線通信手段と、

該無線通信手段に対する制御指令の出力、上記無線通信手段を経由して上記公衆通信回線からデータを入力、または上記無線通信手段を経由して上記公衆通信回線にデータを送出する処理を行うコンピュータと、

そのコンピュータによって所定の画像を表示する第1ディスプレイと、

残量表示と、その残量表示が電源の残量表示である事を示す表示とを前記第1ディスプレイに表示する表示制御手段を備えることを特徴とする携帯型コミュニケータ。

【請求項2】

請求項1記載の携帯型コミュニケータにおいて、

受信待機中であることを示す表示を前記第1ディスプレイに表示することを特徴とする携帯型コミュニケータ。

【請求項3】

請求項1～2のいずれか記載の携帯型コミュニケータにおいて、

ランプを備え、

受信中、そのランプにより受信表示を行うことを特徴とする携帯型コミュニケータ。

【請求項4】

請求項1～3のいずれか記載の携帯型コミュニケータにおいて、

前記表示制御手段は、

データ受信中または通話中でも、前記第1ディスプレイに電源の残量表示を表示することを特徴とする携帯型コミュニケータ。

【請求項5】

請求項 1～4 のいずれか記載の携帯型コミュニケータにおいて、

前記表示制御手段は、

電源の残量表示を棒グラフで表示することを特徴とする携帯型コミュニケータ。

【請求項 6】

請求項 1～5 のいずれか記載の携帯型コミュニケータにおいて、

前記コンピュータによって所定の画像を表示する第 2 ディスプレイを備え、

データメニュー又は電話メニューであることを示す表示を前記第 2 ディスプレイに表示することを特徴とする携帯型コミュニケータ。

【請求項 7】

請求項 6 記載の携帯型コミュニケータにおいて、

さらにナビゲーションメニュー又は電話メニューであることを示す表示を前記第 2 ディスプレイに表示することを特徴とする携帯型コミュニケータ。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0004

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0004】

GPS 利用者装置は、NAVSTAR GPS (navigation satellite time and ranging positioning system) を利用するためのものであって、地球上の位置や高度のデータを提供する。

また、これら携帯型の情報装置は、電池を電源として動作する。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

また、これらを複合した機能を有するものがあるとしても、電池が切れてしまうと、その機能を生かせなかった。本発明は、上記の問題を解決して、これらの個々の機能を複合させた機能を、実用的に得ることを目的とする。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

本発明の携帯型コミュニケータは、公衆通信回線に無線によって接続され、該公衆通信回線を経由して発信、または受信を行う無線通信手段と、該無線通信手段に対する制御指令の出力、上記無線通信手段を経由して上記公衆通信回線からデータを入力、または上記無線通信手段を経由して上記公衆通信回線にデータを送出する処理を行うコンピュータと、そのコンピュータによって所定の画像を表示する第 1 ディスプレイと、残量表示と、その残量表示が電源の残量表示である事を示す表示とを前記第 1 ディスプレイに表示する表示制御手段を備えることを要旨とする。

携帯型コミュニケータは、受信待機中であることを示す表示を第 1 ディスプレイに表示することが好ましい。

携帯型コミュニケータは、ランプを備え、受信中、そのランプにより受信表示を行うことが好ましい。

携帯型コミュニケータは、表示制御手段が、データ受信中または通話中でも、第 1 ディスプレイに電源の残量表示を表示することが好ましい。

携帯型コミュニケータは、表示制御手段が、電源の残量表示を棒グラフで表示することが好ましい。

携帯型コミュニケータは、コンピュータによって所定の画像を表示する第2ディスプレイを備え、データメニュー又は電話メニューであることを示す表示を第2ディスプレイに表示することが好ましい。

携帯型コミュニケータは、さらにナビゲーションメニュー又は電話メニューであることを示す表示を第2ディスプレイに表示することが好ましい。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

本発明の携帯型コミュニケータは、例えばコンピュータによって作成、又は入力した音声データ、ファクシミリデータ、又はワードプロセッサーデータを、公衆通信回線に接続された所望の相手に送ったり、先方から受けたり、あるいは現在の位置のデータに基づいて、所望の処理を行うことができる。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

この結果、利便性が高い情報交換装置が得られるという極めて優れた効果を奏する。

また、この携帯型コミュニケータは、第1ディスプレイに表示された残量表示と、この残量表示が電源の残量を示すものである表示もなされていることから、第1ディスプレイを見れば、電源の残量が一目で把握できる。

受信待機中であることを示す表示を第1ディスプレイに表示すれば、受信待機中であることが電源残量と共に分かる。そのため例えば、この携帯型コミュニケータを持って山登りをしたとき、電池が切れないように電波の届く範囲を選んで行動すれば、遭難が防止できる。また、田舎をドライブするとき、電池が切れないように電波の届く範囲を選んで行動すれば、緊急通報ができる。

ランプを備え、受信中、そのランプにより受信表示を行えば、暗い場所でも受信したことかわかり便利である。

表示制御手段が、データ受信中または通話中でも、第1ディスプレイに電源の残量表示を表示すれば、例えば、通話中に電源残量が少なければ、通話を短く切り上げることが可能となる。

表示制御手段が、電源の残量表示を棒グラフで表示すれば、電源残量が極めて分かりやすく一目で把握することができる。

コンピュータによって所定の画像を表示する第2ディスプレイを備え、データメニュー又は電話メニューであることを示す表示を第2ディスプレイに表示すれば、電源残量は一方のディスプレイ、データメニュー等は他方のディスプレイと、なにがどこに表示されるか利用者が把握しやすいので便利である。また、利用者が見たい表示がなされているディスプレイを表示すれば、電源も節約できる。

さらにナビゲーションメニュー又は電話メニューであることを示す表示を第2ディスプレイに表示すれば、山登りの際に通話もでき、ナビもでき非常に便利である。